

恩納村のお墓

恩納村史「民俗編」専門委員 比嘉ひとみ

皆さまがこの記事をご覧になっているのは、あの世の正月といわれるジュールクニチ（旧暦1月16日。今年は新暦2月25日）が済み一息ついている頃でしょうか。

恩納村史では現在民俗編の編さんを行っていますが、その項目の一つに「人生儀礼」があり、人が生まれてから亡くなるまで（その前後含む）の儀礼についてまとめることになっています。その中で私が担当しているのは「葬墓制」の部分で、平たく言うと葬式とお墓の習俗になります。

さて、民俗調査には現地調査が欠かせませんが、私が調査に本腰を入れた2022年はまだコロナ禍にあり、年配の方を訪問し聞き取りする難しさは予想できました。恩納村では15行政区中、7区で字誌が刊行されていますが、それらを大いに参考にすることも確認したい点はどうしても出てきます。困ったときは公民館（区事務所）が頼りです。幸いにお墓は屋外で、しかも形としてみえます。墓地を回りながら区長さんからお話を伺い、それをとっかかりにしようと思えました。

その後は村史事務局職員と一緒に各区を訪問し、区長さんや区民の方のご案内で墓地や葬墓制に関わる場所を見せていただきました。また、その折々で気になったことをお聞きし記録しました。今回の調査で確認できたことを紹介します。

・死者と生まれ育った区（シマ）の別れの儀礼であるシマワカリ（シマミー）を現在でも行っている区は、仲泊、前兼久、富着である。

・ノロや根神といった神役を祀る墓は前兼久、山田、富着、名嘉真にある。区が中心になり清明祭に拜む。

・ムラ墓（アザ墓）が残存するのは、富着、谷茶、名嘉真である。谷茶では、2020年に建立したムラ墓がある。これは隣区との境界にあった旧ムラ墓を移動したものである。移動時の記録写真がある。ムラ墓



龕屋（恩納）



ムラ墓（谷茶）

と呼ばれる墓は他にも2基あり区で管理している。現在ではここへの葬式はみられない。

・^{ガンヤ}龕屋（かつて死者を運ぶ道具であった龕の保管場所）を確認できたのは恩納と南恩納である。名嘉真も残っているとのことだが、草木が繁茂し今回は確認できなかった。宇加地では元から龕はなく、隣区の読谷村長浜から借用した。瀬良垣でも龕は恩納や安富祖から借りたと聞く。恩納では墓地入口付近に龕屋があり、板ビシを利用している。